

多くの「初めて」につながる第一歩

(原文は英語)

モハメッド・ラシェッド・ジャオウッド・カーン (20 歳)

バングラデシュ

クルナ大学

ある中年男性が道に横たわって苦痛でうめいていた。このかわいそうな人の周りに数人が集まって静かに立っている。その男性は彼らに自分が抱えている問題について説明するも、その弱々しい言葉は傍観者たちを少しも動かすことはできなかった。何人かはその病人を置いてその場から立ち去ってしまった。授業に向かうために家から出てきた私は、ひと目でこの状況に注意を引かれ、その男性に近付き、どうしたのか問いかけた。その男性は道で突然睾丸痛に見舞われ、全く動けなくなってしまったのだ。そこで、今私に何かできることはあるか彼に聞いてみた。彼は自分の家まで送ってもらえたらうれしいと言った。私は周りの人にリクショー（地元の乗り物）を探してくるよう頼み、彼らは 1 台見つけてきてくれた。私が男性を持ち上げると、何人かが彼が持っていたカバンを拾い上げるなどして手を貸してくれた。私はリクショーの代金を支払って、運転手に彼の目的地まで届けるよう依頼した。他の人々もリクショーの運転手に助言をしていた。リクショーが去った後、男性がどれくらいの時間あのまま倒れていたのかを隣にいた人に聞いたところ、30 分程とのことだった。私は顔き、授業に出席するためにその場を去った。

私にとって「優しさ」とは、感謝の見返りを求めずに行う、あらゆる生き物に対する共感および協力といった行為のことである。優しさはさまざまな形の行動で示すことができる。先ほど述べたような体験は私の国ではよくあることだ。誰かが事故や突然の病気、路上強盗、他人から不適切な行為を受けるなどのトラブルに巻き込まれた場合、周りの人々はただ見ているだけで、困っている人を助けようとはしないことが多い。情け深い人が現れてその人を助けるまで、彼らはただ見ているだけだ。普通の人の考えは「自分のことだけで手一杯なのに、なんで他の人の面倒まで見なきゃいけないんだ」である。自分のいる社会がこのような社会であることを認めるのはとてもつらい。私はずっと「一人は皆のために、皆は一人のために」という哲学が推奨され実践される社会を夢見てきた。そして、ひと月前に体験した前述の出来事を通して学んだことからそれに対する解決策を見出した。それは、人の心にある優しい気持ちを呼び起こすためには、誰かが最初の一步を踏み出す必要があるということだ。この一步は「社会的活動」というよりも「心理的イニシアチブ」と言ってよいだろう。誰でも優しい心を持っているが、他者に対して責任を負うという勇氣は誰もが持っているわけではない。この理由だけで、多くの人は誰かを助けるという素晴らしい体験を知ることのないまま生きている。そこで私は友人た

ちと共に、人間だけでなく他の生き物にとってもより優しい社会にするために率先して行動することにした。それが「The First Step Society（初めの一步の会）」である。ここでは毎週メンバーが集まって、各自がその前の週に行った優しさの行為について報告し合う。これに対する反響はとてつもなく大きく、週を追うごとに参加者が増えていった。これまでにメンバーから報告された注目すべき優しさの行為には次のようなものがある。炎天下で交通量の多い道路の交通整理をしている警察官に水を差し入れた。レストランに行く際に物乞いやストリートチルドレンをランダムに選び、一緒にランチまたはディナーを食べた。使わなくなった物を置いていき、それを必要とする人が持ち帰ることができる場所「Wall of Humanity（人道の壁）」を設置した。感電した人を救助し病院に連れて行った。暑い夏の日、鳥のために高層ビルの窓際に小さな水入れをいくつか設置した。これ以外にもさまざまな素晴らしい体験が報告されている。これらの行動は小さなことだと思えるかもしれないが、人道の象徴として私たちの心に強い印象を残す。人々は感動し、他の心優しい人たちから触発を受けるために私たちの集まりに参加し、全ての生き物に対する優しい心をよみがえらせていく。より良い未来を実現するための小さな最初の一步だ！